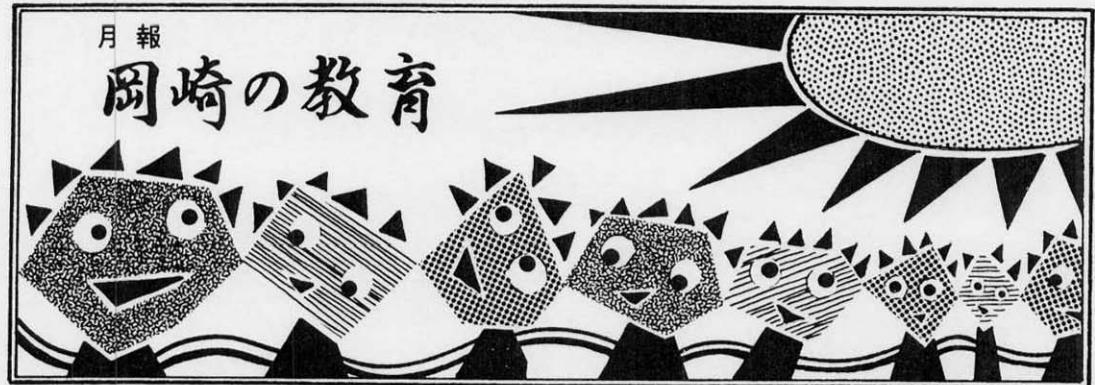


月報

岡崎の教育



6月号

昭和61年6月1日

発行／編集

岡崎市教育委員会

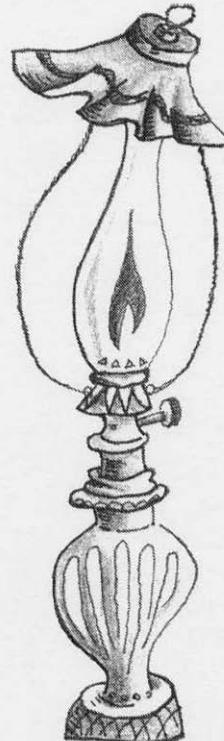
すきとおるような着葉が
心地よい風に
さわさわ
さわさわ
ハーモニーを響かせる。
追いかけるように
プラスバンドが
力強いリズムを刻んでいく。
もえあがる生命の合奏に誘われて
もえあがる生命(いのち)
そうして校庭に
夏が近づいてくる。

（もえあがる生命）



(白雲の塔の前で一美川中)

動物の特徴の一つは、自分の力で動き廻ることであるが、筋肉がその担い手であるということを知ったのは、人類が物心つくると同時であったかと思われる。実験科学の父といわれるガレノス（一二九〇～一二〇〇？）は、筋肉についても秀れた研究を行い、そのレベルはフランス革命の頃よりも高かつたという。断片的に残された記録を今の目で見ても、感嘆すべ



研究テーマに何を選ぶか

江 橋 節 郎

きことが多い。しかしガレノスの名が、中世の「暗黒時代」を生き存えたのは、その高度の科学的業績によるものではなく、「精気説」のお蔭であった。

ガレノスによれば、筋肉の収縮は、脳に貯えられている精氣（ニユーマ）が神経を通じて筋肉に流れこむことによって起きるという。これは精靈（アニマ）などがまともに信じられていた時代にあって

である。当時、特に英國において、なぜか筋肉の研究が盛んであつたが、その中心テーマは「精氣とは如何なるものか」ということであつた。勿論精氣などは存在しないとすっぱり割り切つた学者もいた。なかつたわけではないが、そういった人々の論拠も、現在の科学的評価に耐え得ることに幸福というべきである。

研究者の運命は、研究テーマの選択に懸かっている。それに較べれば、才能や学識などは二の次であることは、科學者自身が誰よりもよく知っている。当面、華やかに見えるテーマが、実は精氣論でないという保証はどこにもない。自分が精氣論に奉仕しているのではないかといふことを懐いていたことのない研究者は、まるでなかつたのである。

（岡崎國立共同研究機構
生理学研究所長）

教育隨想

は、科学としてむしろ前向きの意味をもつていた。ところがそれが暗黒時代に、幸か不幸か神秘説と認められて生き残り、ルネッサンス時代に受けつがれることとなつたのである。

たしかにルネッサンスは近代科学にとつても曙光であるが、その内容はギリシャ・ローマへの復古ないしは後退といつた面が少なくなかった。その一つがこの精氣論

（一六三三～一六八三）は、その一生を筋研究に捧げたばかりでなく、その後も、筋研究が更に発展することを願つて、その遺産を特別講演実施基金に寄付したのである。クルーンは、英國王立協会（ロイヤル・ソサイエティ・ロンドン）。一六四五年、ロンドンに設立された最も権威あるアカデミーで、日本の学士院は之を規範として設立された）の設立に貢献した一人であり、この特別講演を行なうことは、現在でも神經筋生理学研究者にとって、非常に名誉なこととなつてゐる。

クルーンの意図は、自分で達成できなかつた精氣の研究を完遂して欲しいというところにあつたことは想像に難くない。この様にして精氣説は十八世紀の初頭に至るまで、その害毒を流しつづけたのである。一代の碩学が一堂に会しては、「精氣とは何ぞや」と激論を交して、いた光景は、第三者的目には喜劇そのものであるが、我々學問の後輩にとつては、傷ましい悲劇である。

研究者の運命は、研究テーマの選択に懸かっている。それに較べれば、才能や学識などは二の次であることは、科學者自身が誰よりもよく知っている。当面、华やかに見えるテーマが、実は精氣論でないという保証はどこにもない。自分が精氣論に奉仕しているのではないかといふことを懐いていたことのない研究者は、まるでなかつたのである。

道徳授業と基本發問

前道徳指導員

鈴木 松三

「眠っているうさぎをそつと追い越したかめをどう思うか」

教師の發問で、かめをかばう意見と、けなす意見が出て、授業に活気が出でる。この話し合いを通して、どう価値を選択して生きるのがより人間的なのかの學習が展開されていく。

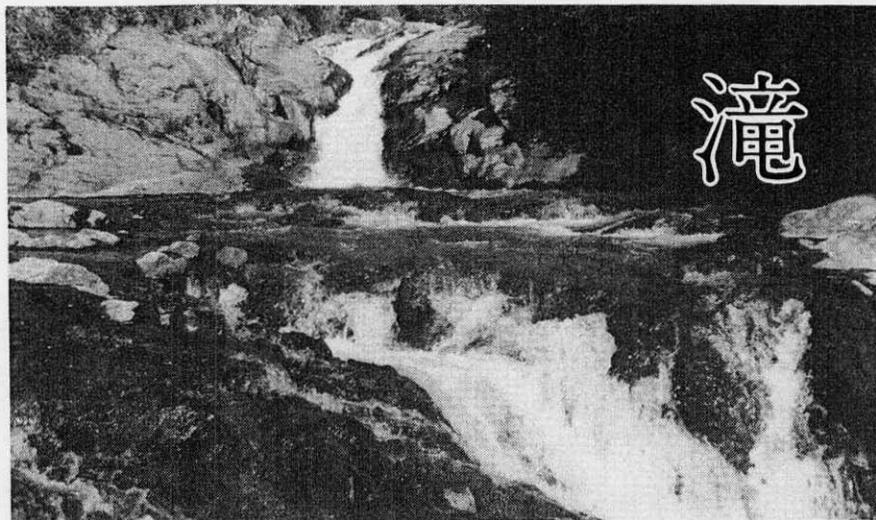
「びんぼう、てんぼうとからかわれている時の英世の気持ちを考えてみよう」。だからかわれ、泣き出したいくらい悲しかつたと思います。

「怒れてしかたがなかつたが、じつと我慢していたと思います」。

友だちからからかわれる英世になりきつて、その悲しみを語り合う子供たち。こうした學習を通して、他人の心の痛みがわかり、思いやりの心が育つていく。



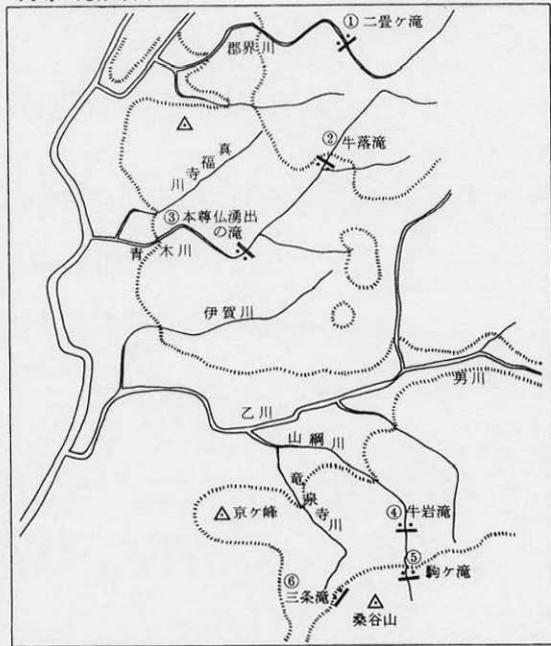
道徳の授業は、資料に登場する主人公の生きざまを通して、他者理解をしたり、自己の持つ価値観に気づいたり、生き方



岡崎
再見

54

岡崎の滝分布図



1

すめしたい。

(写 真 説 明)

1・二疊ヶ滝 郡界川に懸る市内最大の滝。明治の頃この滝の落差に目をつけた杉浦銀蔵がここに中

部初の発電所を建設した。花こう岩に挿まれた片麻岩と閃緑岩の帶が川の下刻作用をはばんでいる。タイトルバックの写真は滝の上段で、上下二段になつていて、そこから二疊ヶ滝の名がついた。

2・牛落ちの滝 青木川の本流と小丸川が合流する地点から上流へおよそ一〇〇メートルの間の谷底

にある。常磐東小の通学路は古い街道で、そのまま昔大沼街道はこの難所を避けてこれより東方の

小丸から田代に抜けていた。本流より小丸川の方

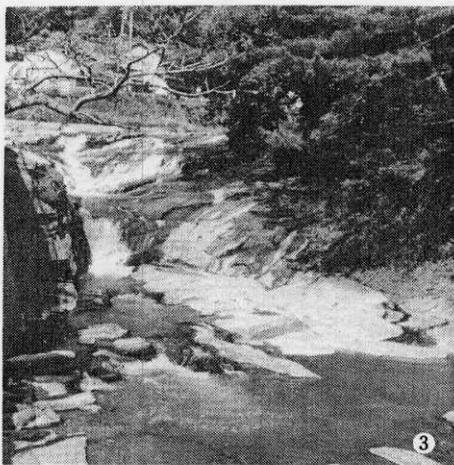
が浸食の速度が早く、その高度差が滝をつくった。三階の滝とも呼ばれるが、戦

六月から七月にかけては、川の水量が一年中でも最も豊かな季節である。深緑の樹陰、白いしぶきをあげて流れる水を眺めていると、世情の煩わしさを忘れ、心の洗われるおもいがする。

さて、市内にも「滝」と名のつく急流が何箇所かある。いずれも滝にまつわる民話や伝説があり、昔から人々に親しまれていた場所であつたと思われる。

滝の成因はいろいろあるが、市内のもののはほとんどは川の若返りによつて谷頭が後退し、河川勾配が急になつている遷移点である。川底に硬い岩石が分布しているとより立派な滝に成長する。滝より上流には古い谷底がほぼそのままの地形で残つてゐる。

滝に限らず、止むことなしに流れる清流を眺めることはいのちの洗濯に最適である。梅雨時のうつとおしさを晴らすために渓流を訪ねてみることをおす



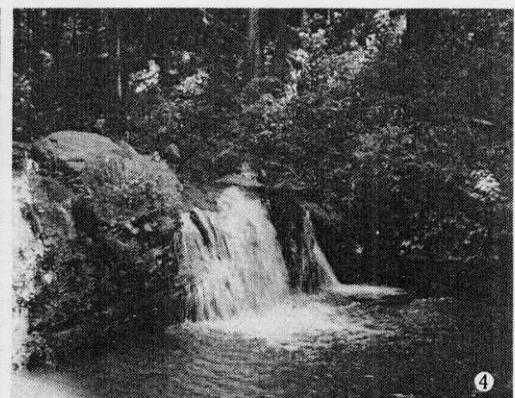
3



2



5

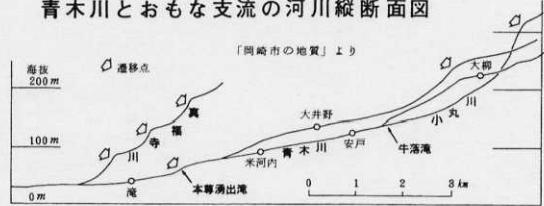


4



6

青木川とおもな支流の河川縦断面図

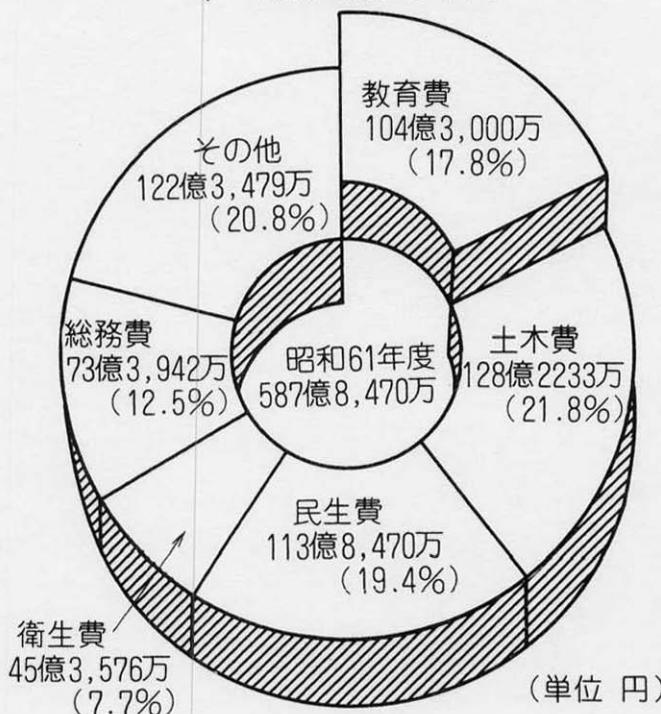


- 4・牛岩滝 桑谷山荘に登る道を西郡みちという。恋穴が残っているのが興味深い。
- 5・駒ヶ滝 西郡みちをさらに登り、三つ目のヘヤピンカーブの少し手前から左へ入って七〇〇メートルほどにある。葦毛の駒に乗った神様がこの滝に降りてくるという伝説があり、神のよりしろの石を祭ったところがある。扇子山の開拓部落のあるところは古い地形、滝は山綱川の谷頭にあたる。
- 6・三丈の滝 桑谷の奥、葵採石の現場をぬけて右手にはいる二つ目の谷をつめたところにある。水量はないが落差一〇メートルほどの秘滝である。

岡崎市の教育予算

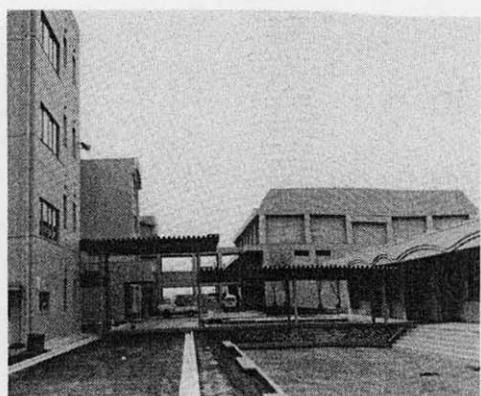
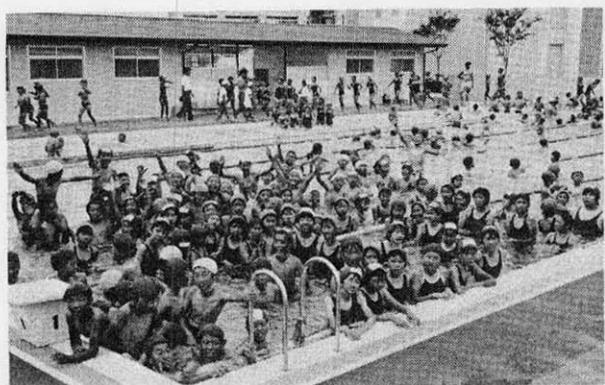
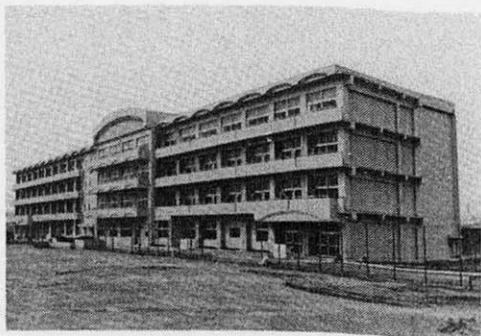
「愛と希望に満ちた教育と
香り高い文化をめざして」

〈一般会計予算〉

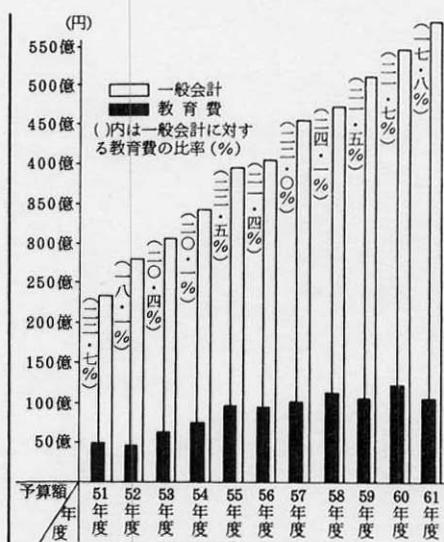


ズームアップ

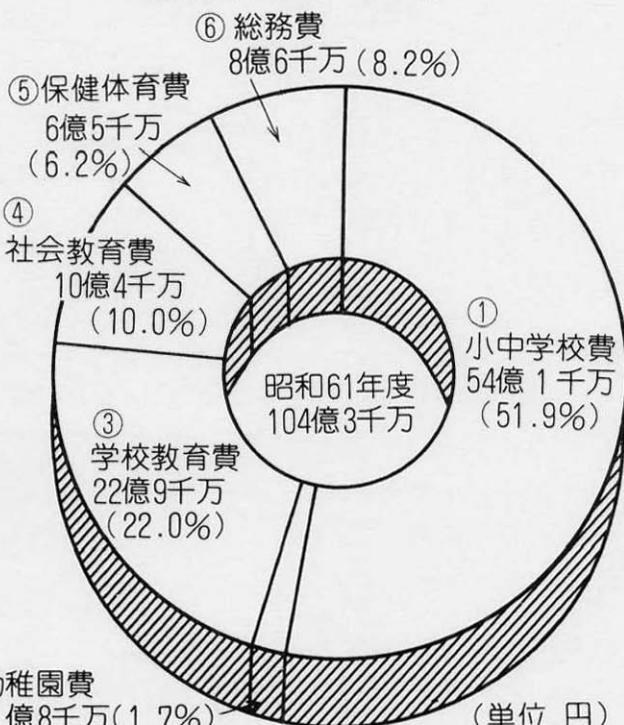
- ①義務教育施設の整備として、常磐東小学校を全面移転新築
- ②校舎増改築は小学校四校・中学校一校、屋内運動場建設は中学校二校
- ③教育用備品の充実
- ④「子ども岡崎風土記」の編集
- ⑤新編岡崎市史の編さん事業
- ⑥学校、幼稚園の警備強化
- ⑦学区子どもの家の建設
- ⑧文化財資料館の建設



◆一般会計予算額と教育費の推移◆

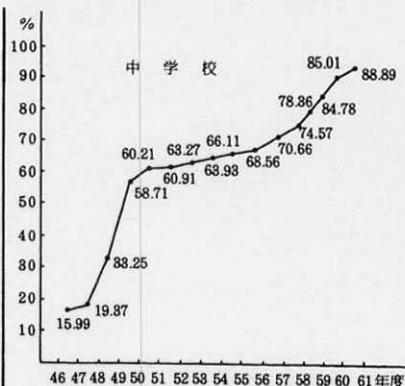
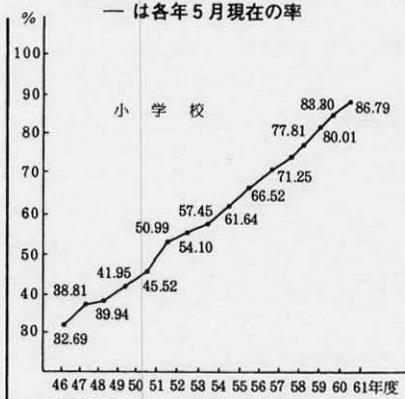


<教育費の内訳>



◆校舎鉄筋化率の推移◆

—は各年5月現在の率



①小中学校費

○昭和61年度義務教育施設整備

- ・小学校新築（常盤東小学校）
- ・校舎増改築（美合小、六名小、六中小、本宿小、東海中）
- ・屋内運動場（常磐東小）
- ・プール建設（竜南中）
- ・クラブハウス新設（岩津中、常磐中）

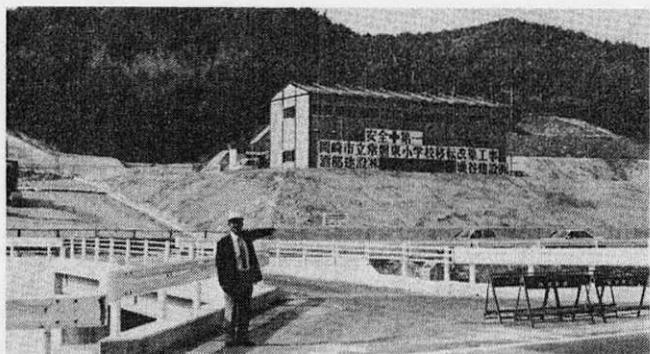
②幼稚園費…………私立幼稚園就園奨励補助など

③学校教育費…………教育用備品の充実、ハートピア岡崎の運営など

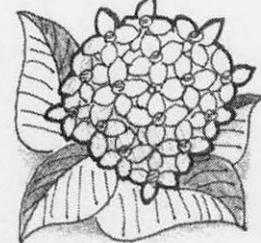
④社会教育費…………図書館の充実、地域文化広場の運営など

⑤保険体育費…………運動広場の整備、市民球場建設設計画など

⑥総務費…………展覧会の開催、新編市史編さん事業など



おしらせ



[寄贈刊行物・資料等]

愛知県教員組合

◆想うまに

平野有行

◆B5 五八ページ

◆B5 六四ページ

◆梅小移山

梅園小

◆本との対話 第十号

美川中

◆B6 一一一ページ

◆B5 一〇〇ページ

◆愛知の子どもは今・何を

市教委

◆A6 一二九ページ

◆A6 五五ページ

◆心の電話おかげ

市教委

■第七回市中学生姉妹都市親善訪問使節団

市が十月に派遣する姉妹都市米国ニューポートビーチ市への「中学生親善訪問使節団」の団員が決まった。

(生徒)

・市川直樹(岩津中三年)

・山崎将志(六ツ美中三年)

・稲垣敬子(矢作中三年)

・加藤亜弓(矢作北中三年)

(教師)

・蓮尾均(甲山中教諭)

・畔柳都(美川中教諭)

一方、これに先立つて今月二

十五日には、ニューポートビ

チ市から四人の中高生と校長夫

妻の親善使節団が岡崎市を訪問

する。

昭和六十一年度前期教育実習

昭和六十一年度前期教育実習

昭和六十一年度フラワー・ブ

ラボー・コンクール春花壇の審

査において、上地小学校が奨励

賞に選ばれた。

市内小中学校で実施された。

全日本バレーボール小学生県大会

優勝 4V山中小男子・5V竜美丘小女子

昭和六十一年度全日本バレーボール小学生県大会は去る六月十五日、江南市で開かれた。

県下の地区予選を勝ち抜いた

男子八チーム(岡崎市からは、

山中小・大樹寺小・六ツ美南部

小・竜美丘小)、女子十チーム

(岡崎市からは、竜美丘小・上

地小)が出場し熱戦を展開した。

決勝戦は、男子が山中小学校

と名古屋市の伊藤小学校。女子

は昨年と同様、竜美丘小学校と

上地小学校の岡崎勢同志の顔合

わせとなつた。

結果、男子は山中小学校が四

年連続四度目の優勝。女子も竜

美丘小学校が、五年連続五度目

の優勝を飾つた。

両校は、八月十五日から東京

■上地小にFBC春花壇奨励賞

昭和六十一年度FBC春花壇の審

査において、上地小学校が奨励

賞に選ばれた。

小	竜美丘	2	(15 - 1)	8	0	伊藤小
小			15 - 10	0	上地小	

女子決勝

昭和六十一年度全日本バレーボール小学生県大会は去る六月十五日(月)から二週間

(一〇八名)・四週間(一名)

市内小中学校で実施された。

昭和61年度

●児童・生徒数・教職員数の実態

61. 5. 1現在

区分	学 校 数	学級数 (特 殘)	児童・生徒数			校長・教員数 (非常勤講師を含む)			養護教員	事務職員	栄養職員
			男	女	計	男	女	計			
小学校	41	795(35)	14,219	13,692	27,911	516	514	1,030	44	44	14
中学校	16	385(19)	7,804	7,602	15,406	446	199	645	17	22	7
合 計	57	1,180(54)	22,023	21,294	43,317	962	713	1,675	61	66	21
60年度計	56	1,114(53)	22,149	21,250	43,399	951	701	1,652	60	67	8

●学年別児童・生徒数

●学級・学校の規模

小 学 校				中 学 校			
学年	男	女	計	学年	男	女	計
1年	2,192	2,146	4,338	4年	2,451	2,186	4,637
2年	2,273	2,157	4,430	5年	2,371	2,420	4,791
3年	2,250	2,249	4,499	6年	2,585	2,486	5,071
				1年	2,631	2,565	5,196
				2年	2,577	2,569	5,146
				3年	2,544	2,437	4,981

	小学校	中学校
1校当たり児童・生徒数	681人	963人
1校当たり学級数	19学級	24学級
1学級当たり児童・生徒数	35人	40人

●カット

東海中 村松裕敏

太正五年七月一日、待望の市制が許可された。町ではこの日を祝つて、三日間盛大な祝賀絵巻をくりひろげたという。学校児童たちは市制施行をどのように祝つたであろうか。この年連尺、投両校の一部を統合し、新設移転した梅園尋常高等小学校

(旧岡崎学校)の学校日誌は次のように記している。

一、午前四時半尋六以上旧連尺

校舎集合午前五時龍城神社二於テ執行ノ市政実施奉告祭ニ参列セリ時ニ雨激シカリシモ無事終了ス

二、午前八時全校児童ヲ学校二召集各教室ニ於テ各受持ヨリ市政実施ニ関シ必要ナ講話ヲ

制が許可された。町ではこの日を祝つて、三日間盛大な祝賀絵巻をくりひろげたという。学校児童たちは市制施行をどのように祝つたであろうか。この年連尺、投両校の一部を統合し、新設移転した梅園尋常高等小学校

(旧岡崎学校)の学校日誌は次のように記している。

一、午前四時半尋六以上旧連尺

校舎集合午前五時龍城神社二於テ執行ノ市政実施奉告祭ニ参列セリ時ニ雨激シカリシモ無事終了ス

二、午前八時全校児童ヲ学校二召集各教室ニ於テ各受持ヨリ市政実施ニ関シ必要ナ講話ヲ



梅園小学校

大正5年の学校日誌



*男を磨く酒の本	斎藤茂太
PHP	¥ 980
*読	井伏鱒二編
作品社	¥ 1200
*万葉の歌	加藤静雄
保育社	¥ 1400
*子どもの見る目	有田和正
国土社	¥ 1200

*ヤマトタケル	梅原 猛
講談社	¥ 1400

スーパー歌舞伎市川猿之助の4ヶ月に亘るロングランの上演のために書き下ろした歌舞伎の脚本。

冒險的な著作者をもって自任している著者の新しいジャンルの開拓であり、悲劇の英雄「ヤマトタケル」の謎に迫る畢生の大作である。

一度くらい史実と離れ、自由奔放な想像力を働かせ、古代世界を書いてみたいという著者の潜在的願望が、梅原古代学の集大成として結実したともいえよう。

「おはようございます」と明るい声が響く。今日もさわやかな笑顔で一日がスタート。あいさつ運動が始まり、一年生の新鮮で元気な声に流れ、上級生の口からも自然に声が出る。

運動の輪が少しづつ広がるのを見ることにつれ、挨拶の効用を改めて感じた今日このごろである。

焼夷弾。太平洋戦争の時B29による本土空襲を経験した者にとっては忘れることがない代物で、日本中を焼野原にした元凶である。

当時の焼夷弾の再生利用で、鎌や鍔があり、木の香新しく誇り高き学校であった。

蔵氏に取材に行って聞いた話である。



朝、教室に飛び込んで来た子どもが、「わたしの手紙、お母さんがバッグの中に入れて会社へ持つて行ったよ。『お守りみたいに大事にするの』って」と、きらきらした目とこぼれそうな笑顔で話しかけてきた。「いつまでも覚えとくよ」とついていったよ」と他の子。母の日の手紙の後日談である。



「スピードは控え目に、ブレー
キは早目に」という標語がある。
スピードを出さなくともよいよ
うに朝余裕をもつて出勤するようにした
ら、今までただ前の道しか見えなかつた
のが、自然の移りかわりや人の表情まで
がよく見えるようになつた。心のゆとり
を大切にと考えるこのごろである。

